

あしたの施設生活を目標として

あした NO 08

読者施設自治会全国大会

目次

ブレスリンさんからみた四国シンポ	1
スシバー	3
いよいよ厚生省に要望を	5
会員消息	6
施設生活を向上させる処方箋	7
原稿募集	15
施設見学と「フリートーク」	15

読者の皆様に 事務局

★ 会員名簿作成のために氏名公表の確認のお便りが届いているはずですが、いかがでしょうか。もしもまだの方がいらっしゃいましたら、事務局へお問い合わせ下さい。

また、お便りの中の返信用のはがきはもう投函していただけたでしょうか。まだの方は至急投函していただけますようお願い申し上げます。

☆ 「あした」《テープ版》のお知らせ

先号で「あした」のテープ版の要望を確認させていただきましたところ、さっそく希望がありましたので、ただいま作成しております。もうしばらくお待ち下さい。ほかでも希望される方や団体がありましたら事務局宛に申し込んで下さい。

ただし、テープ版になりますとテープなどの実費を負担していただきます。

ブレスリンさんからみた四国シンポ

事務局

昨年9月、高松で開催された療護施設自治会全国ネットワークの総会（四国シンポ）の際にお招きしたメアリー・ルー・ブレスリンさんは、あの総会で何を感じられ、その後日本で、どんな行動をしたのでしょうか。彼女に同行した川内美彦（リーガル・アドボカシー育成会議 代表理事）氏が「福祉労働73号」に『法律を味方につけよう！』で報告しておりますので、以下にその一部を紹介します。詳しくは同号をご覧ください。

〈はじめに〉

LADD（ラッド：リーガル・アドボカシー育成会議）は今回、アメリカからDREDF（ドレドフ：障害を持つ人の権利教育、援護基金）の理事長であるメアリー・ルー・ブレスリンさんを招きました。彼女は9月1日に来日し、2週間をかけて金沢、大阪、松山、熊本、東京で講演を行ないました。

ご存知のようにアメリカでは、1972年にバークレーに最初の自立生活センターが設立され、その活動は世界中に広がりました。日本でも多くの自立生活センターが活発に活動していますが、アメリカの自立生活運動の成功の陰には、自立生活センターの活動を補完し、さらに高度で有効なものとしていくための法律専門家の存在がありました。

そのような団体の草分け的存在としてDREDFがあります。DREDFはもともとバークレー自立生活センターの法律サービス部門でしたが、1979年に独立して、障害を持つ人やその家族の中の法律専門家によって結成されました。

メアリー・ルー・ブレスリンさんは、このDREDFの創立以来の中心メンバーで、彼女自身は弁護士ではありませんが、だからこそ、ニーズを持った当事者が専門家をコントロールするという理想的なあり方を実行してきた人でもあるわけです。

（中略）

〈松山で〉

松山では「『療護施設と人権』シンポ&全国交流集会」という大会が開かれていて、その大会のゲストスピーカ

一として招かれました。施設は施設という体質そのものが人権を損なっているものですし、地域で当たり前生きるというノーマライゼーションの考えとは基本的になじまないものです。事実、施設縮小あるいは閉鎖の方向が決定され、実行に移されている国も増えています。

会合では、これが現在の日本で起きていることかと耳を疑うような実態が次々と報告されました。「内部の締め付けで、なかなかこのような会合に自由に参加できない。彼女が来るということで人寄せパンダ的な役割を持っていただいて、全国から150人もの人が集まった」という言葉を聞くと、問題の根深さにあ然としてしまいます。このような現実を改善するために私たちがしなければならない課題はあまりにもたくさんあります。残念ながら、集会はまだまだ組織としては弱く、自分たちの手で改善していくんだという決意や力強さを感じることはできませんでしたが、これも施設という体質によるものなのかもしれません。

(中略)

〈 東京で 〉

松山で日本の施設の状況を垣間見たメアリー・ルーさんは、ぜひ施設を見

たいと言いはじめ、私たちは知的障害を持つ方の施設と肢体不自由の方の施設を訪れました。どちらの施設も日本の中ではかなり先進的な取り組みをしている施設であり、居住者の自立を目指すという目標を掲げていますが、

「では実際にどのくらいの方が施設を出て地域で暮らしはじめていますか」という質問への答えは、ほんの数人程度でした。居住者に施設での暮らしを聞くと「不自由なこともあるけれど職員がいてくれるので安心」「地域へ出ると、いろいろ大変な気がする」といったもので、必ずしも彼女が期待したものではなかったようです。重度な障害を持つ人が地域で暮らすには、介助のシステム、住宅、移動などなど整備されなければならないことが山ほどありますが、現実にはそれだけの受け皿がまだまだできていないわけで、施設から外へ出て行くための動機づけになるには程遠いものです。東京都の障害福祉部長にもお会いすることができましたが、「施設の小規模化を進め地域に密着したものにし、いずれは縮小を目指したいが、施設に対するニーズも強い

し、地域の反対もあるので、両方の方向を持たざるをえない」ということでした。なにがどうなってこんなに難し

い問題になってしまったのでしょうか。
ここに至まで何が行なわれて何が行われなかったのでしょうか。

(中略)

9月14日、メアリー・ルーさんは成田を発ちました。彼女の初めての日本訪問はなかなか好印象で終わったようでした。しかし、先進社会と目され、西洋化も進んだ日本で彼女が見たものなかには、彼女には理解できないものも多かったようです。たくさんの情

報が太平洋を渡って行き来しています。それでも彼女の体験した日本は想像に余るものだったようです。もちろんアメリカの価値観が絶対的に優れているとはいえません。私たちは私たちで道を切り開かなければなりません。ひとがひととして生きて行ける社会を。

彼女の訪日は私たちを映す鏡だったと思います。私たちは自分たちの姿をもっともっと鏡に映して、真正面からそれを見るべきではないでしょうか。

スシバー

小峰和守

首から下は全く動かないが積極的に
生きている知り合いがいる。

そんな彼がアメリカに出かけることになった。電動車いすは持ち込めるのか、保険はどうするかなどあれこれ手間取ったようだが、友人のボランティアと共に飛び立った。

アメリカでの案内役についてくれたのが女子大生、それもびちびちのギャルだった。約10日間、精力的に彼女らと共にアメリカを見て回った。すべ

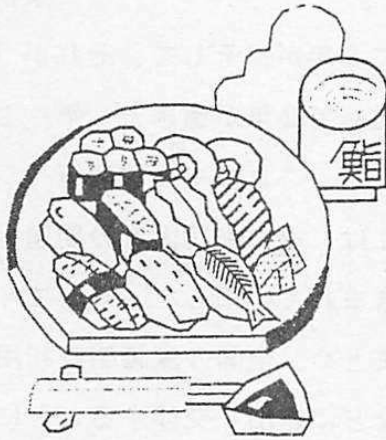
てがカルチャーショックの連続だった。そして、いよいよ明日は日本に戻る日を迎えてしまった。

彼はそのギャルの手をしっかり握ってせめてもの思い出にしたかった。が、腕も全く動かさない彼にはそれもできないことである。それならばと思いついたのが彼女に食事介助をしてもらうことだった。

おずおずとスシバーでの晩さんに招待した。

返事はOK。介助も承知してくれた。

彼女も隣に座り、いよいよ食事が始



まった。

みんなが食べ出した。彼女もおいしそうにほお張る。

念願の彼女が口に運んでくれるのだ、彼は静かに、期待しながら、待った。しかし、彼女は悠然と自分の分だけパクついている。待てど暮らせど彼の口の中には何物も運び込まれなかった。忘れられたのだ。

彼はあせり「エビを食べさせて」と頼んだ。

彼女はにっこりほほえんでエビを運んでくれた。

これで安心なはず。

ところが、彼女はまたしても自分のスシに夢中。

もう半分も食べてしまった。

「トロをお願い」やっとの思いで二つ目を頼んだ。

すると、彼女は優しく言った。

「言われたことはやってあげます。でも、言われなければ何もしてあげられません」

トロを口に運びながら、さらに続けた。

「あなたは手が不自由だから、私が口に運びます。でも、何が食べたいか、いつ食べたいかはあなたが決めなさい。あなたが決められることです」

黙って口を開ければ食べ物が自動的に運ばれてきた日本の「介助」とあまりに違った。ここでも彼はカルチャーショックを受けてしまった。

あなたの望む介助は日本型、それともアメリカ型？

いよいよ厚生省に要望を

*** 施設利用者及び職員の皆様に ***

事務局

「自治会ネット準備会」が発足してからすでに5年が、そして、それが「療護施設自治会全国ネットワーク」として正式に発足して2年が過ぎました。この間、療護施設の抱えているさまざまな問題点・矛盾点が、これまでの機関紙やシンポジウムなどで明らかにされてきました。その中には、その施設固有の問題もありましたが、全国の施設に共通する問題も数多く含まれていました。そこで今年は、その共通する部分を整理・検討して、要望書にまとめ、全国の療護施設利用者及び職員の意志表明として署名も添えて、厚生省などに提出し交渉することにしました。(96年11月9日：三役会議)

さらに、この運動を自治会ネット単独の取り組みとせずには職員ネットにも加わって展開していくことになりました。(97年1月19日：自治会ネットと職員ネット事務局の話し合い)

また、要望書の提出と同時に、マスコミにも私たちの窮状を訴えて、施設問題を単に施設内部の問題で終わらせず、社会問題にまで発展させていこうと考えています。

これからの予定は、自治会ネット・職員ネットの事務局と応募していただいた方々で委員会(作業部会)を作り、そこを中心に要望書とマスコミ宛てのアピールにまとめ、全国の施設にその要望書と署名用紙を配付し、署名していただき、回収して、今年の秋から年末にかけて交渉にはいるつもりでいます。その辺の経過については「あした」にその都度、発表していきます。

ところで、この計画を実現させるためには事務局だけでは到底手に負えません。

以下の点で皆様の参加・協力がぜひ必要です。ひとりでも多くの方に参加・協力していただけますようお願いいたします。いずれも、事務局宛にご連絡下さい。

1. 自治会でも個人でもかまいませんから、要望書に取り入れて欲しい事項を4

施設生活を向上させる処方箋

迫畑吉美

自治会ネットワークより依頼を受け施設は必要無いのか、必要なのならどのように改善し施設の生活を向上させたら良いのか意見を書いて欲しいとの内容でした。

私は施設の必要性は大いに認める立場です。ただ、障害者の生存権を容易に確立出来る選択肢として地域社会や在宅に、海外にさえも道が開かれている必要があります。この施設しか行き場が無いと言うのでは障害者の吹き溜まりとして人間の飼育殺しの発想も出て来ると思うからです。何れにしても障害者の介護という面からのみ施設を捉えるのは時代遅れになりつつあります。その為に施設の改善とか生活の質の向上(QOL)が提唱されているものと理解しています。時代の変遷に従順に従うのも否定しませんが、自らの意思と自己の確立に努力する障害者でありたいものです。誰の為の人生ではなく己れの人生なのだから。



さて、巨額の行財政赤字は様々な波紋を拡げながら福祉の分野にも否応無

く及んで来ています。安楽タダ乗り論ならぬ福祉はタダという認識を障害者は捨てなければなりません。私のここで言う障害者とは自助努力(セルフヘルプ)の能力を有する人のことです。判断力、思考力、表現力、伝達力、実戦力等々が著しく劣っていない障害者を前提としています。この対象の人々が対象から外れる障害者を弁護する役目…を担っている事を忘れてはなりません。

私の貧弱な思考力では説得力も福祉の理論もありませんが、私の基本的な考えとしてQOLを書いておきます。何人かの人に話しましたが支持率0

(我が愛妻すら相手にしてくれず、阿呆かと苦笑しております)なので読まれる方は意のある所を汲んで拡大解釈を宜敷く。



人生は誰でも六分野で考えられると思います。つまり、家庭(家族)生活面、社会(仕事も含む)生活面、教養面、健康面、精神面、経済面、それと障害者には介護面がプラスして考えら

れます。各々の施設はもとより、百人に百通り、千人に千通りの生き方がありますから、施設に暮す人々、福祉に携わる人々にすべての分野をカバーする考えは持ち合わせませんが、この中の一つ、経済面を考察する事でほとんどの人々の集団の問題は解決するはず

です。経済に興味を持ち、経済を学び、経済を実践する事で施設生活の質を向上させることは簡単なことです。個人も集団も、介護する人も、される人も、施設運営者もスポンサーも、あるいはボランティアの人々もです。経済と聞くと何だか怪しげな難しい話と思うかも知れませんが、簡単な話なのです。

人類が集団で暮せば経済が成り立つのです。つまり、より良く生きる事が経済だからです。人が死を望まない限り、経済は成り立ちます。健康な人も重度の障害者も時間と経済はついて回るものです。健常者、障害者に拘らず十人十色、様々な価値観を持ち生きようとしています。

共通する尺度で論じようとするなら、各人が各様に経済を選択していると考えれば簡単です。悪人も善人も金持ちも貧乏な人も生きる為に考え判断し選択している事に気がきます。この判断

し何かを選び取る行為が経済だと思いませんか？

さて、経済を簡単に言うなら二つの三原則から考えたら良いのではないのでしょうか？

つまり、一つは人、物、お金です。もう一つは計画、実践、チェック（反省）機能です。この六の事を有機的に結び付けて生きていると思いませんか。これに、宝くじ、運だめし、軽いギャンブル性で人生を味付けすれば、自らの人生は自らで生きようとする姿に行き着くはずです。私のように無い、無い尽くしの人間でも集団の中に生かされているから経済が見えてくるのです。この考えに理解を示してくれる人が回りに不在なので空回りし無視や蔑視に耐えている悲劇の障害者なのであります。難しく書きましたが大半の障害者は「もっとお金が有れば!」、「何か良い事はないか?」との思いがあると思います。これが私の経済の原点です。

この原点に支持率0なので孤立しています。私のこの気持ちを理解してくれない人はアノ世に限り無く近い所に住む障害者だと負け惜しみで説いています。大ボラ吹きのおッサンとか馬や鹿がチグハグに頭の中を駆け巡る奴と

も。

そんな原点から施設の暮らしを向上させる命題に移りたいと思います。

一つは施設は死ぬまで居られる住空間であるそうだが、なぜか仮住まいの感が心の隅によぎるのは私だけのものでしょうか。妻は良い悪いは別にしても施設はどこまでも施設でしかないと言口にします。世間に借家住まいの人がおられますが、多くの方は仮住まいの感が強いのではと想像します。

この仮住まい的な発想から逃れる事で施設の有用、無用論は消えるのではなかろうか。 どうせ他人に任せた介護の人生だから、どうにも思うようにはならないと考えていませんか。そして、あーあっお金さえ有ればと嘆きの障害者が施設には多いと感じませんか。そんな思いが経済を知ろうとしない原因かと考えます。

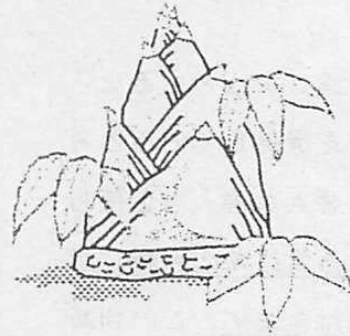
一つには更に大きな原因として年金があります。私は軽い財布を持ち歩いています。背後に日本政府が控えているから安心だと思ってしまいます。汲めど尽きない金脈を持っているので気楽なものです。仮の住まいとは思うものの生命や健康は保障されており、安泰の日々は、ローンを抱え生きる事に汲々としている妹から羨まし(?)がられます。そんな暮らしに生活の質

を向上させようと頑張るのはナンセンスである。経済に背を向けている人に説く処方箋は無いと思うのです。

実も蓋も無い話になりますが、施設に暮らす事は籠の虫で飼い殺しの運命と考えれば思い悩まなくて済みます。鶏舎や豚舎に飼育されているものだって人様の経済原則にのっとって活かされていると言うのに、人間である我々障害者が何故に「無意味な生命を維持」していかなければならないのか。

人の生命は地球より重いと聞かされた御仁も多いと思うが、施設に暮らす大半の障害者は重い生命の実感を抱いているとは思えない。あたかも罪人が収容されているかのような感覚の人が多。それだけに生きる事に誇りが持てないのか、生きることを罪悪と思っているのか。別の言い方では未来に展望が持てない証であろうと思う。

悲しいかな、障害者も福祉に携わる人々も大多数は経済を念頭に置かず、善意と好意と親方日の丸の安易な道を選択していると言っても過言ではない。



肩に力が入りすぎて辛辣な言い回しになりましたが、施設の生活をより良いものにするには、障害者自身が認識を変える必要がある。そして、介護に携わる人々の意識を変え、役人や行政マンを変えていく必要がある。その第一歩が経済に興味を持つことから始まるのは言うまでもない。

健康な人が社会で生きて行くのに大変な労力を費やしているのに、弱者と言われる障害者が生きる意欲や努力を放棄して何が人生ぞや、何が尊い生命ぞや。地球に生きる生命のすべてが強いのものが優位に立ち生き延びている原理を軽視してはならない。

人が人として生きる為にお金の無い者は働き、力の無い者は知恵を出せと言うのが昨今の人類が置かれた状況なのである。我々障害者は頭脳を駆使する事で存在意義を証明していく必要があると思いませんか。

諦めず、粘り強く、意欲的に自分の人生を取り戻す努力が施設の暮らしを向上させるのである。がむしゃらに頑張れと言う意味ではありません。せめて、生きる為の最善の方法について常に考えを及ばせて知恵を出すように心がけることです。そして、生きる事に意欲の持てる方策について考え取り組むことです。



能書が長く成り過ぎたが、以下に支持率0の処方箋を書いてみたい。全国に療護施設や老人ホーム、障害者施設は多々在り千差万別の形態があり、そこに暮す人々も様々であるから、一概にどうのこうのと論じても意味をなさないと思う。ここで注意して欲しいのは未来に向けて何とかしたいという事であり、過去を見詰めて懐かしむ話ではないし、規制の有無は問わず悪事を企む意図はありませんから。否定したり揚げ足を取るのではなく、積極的に何かを為そうとする姿勢で読んで戴ければ幸いです。

とかく、経済と聞くと欲に絡んだ悪事を連想される傾向があり、私の意が伝わらない一因かと不徳が嘆かれます。反省……。



本論の具体的な処方箋

さて、施設生活の向上の処方箋の前提が必要である。未来志向であることや個人として突出しないこと。非難や中傷等々は意欲を減退させるので慎むこと。皆が恩恵にあずかれることや爽やかに明朗であること等々です。悪意や一人よがり、マイナス思考は慎む必

要があります。

(1) 障害者、全職員に「経済」「経営」の基本を学ぶ機会を設けることです。

～全部の職員を含む事と学ぶ場と機会が重要で意義があります～

人の適材適所、付加価値の考え方、経営のイロハ、目標の決め方、能力開発、参加の意識等々、人生のすべてに関わる生き方も見つかると思っております。

特に能力開発はリーダーの育成と経営能力の育成は最優先課題である。障害者は学ぶ場が少ないのと機会が少なく、意欲が減退しています。諦めと自己喪失に陥りやすいのは学びが無いからです。この(A)が受入れられれば70%はQOLの成功です。あなたの住む施設が、あなたの働く施設がソニーや松下電器のような組織と思える人なら私の意が理解してもらえるのですが。人の集団は経済と組織の運営で回り成り立っているのです。組織の運営とは経済のことであり、人間そのものの行為と捉えています。

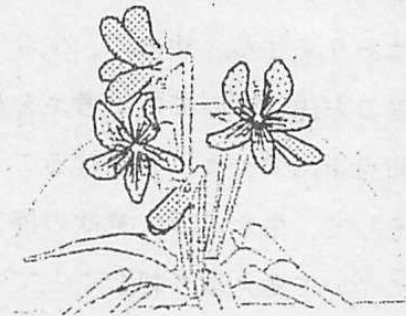
◆ 職員だけの研修や会議に多大費用が用いられますが、何の為の研修でしょうか？。 学校や病院の先生なら必要

かも知れませんが、障害者の参加していない研修は絵に描いた餅です。

障害者自身が思い、考え、目指そうとする生活に、研修に職員だけが物見遊山で参加し「良いお話し」を聞いてこられてどれだけの成果が実感されていますか？。私が給料を払う立場なら成果の見えない研修や会議に参加したのなら蹴っ飛ばしてやります。職員の慰安や行楽なら別ですが、障害者の為の云々は情報手段を選べば出掛ける必要は少なくて済む筈です。

更に、障害者自身が考え、思い、望むことを自分で決めるのでなければ所詮は押し付けであり、受け身であり付け刃か一時しのぎのメッキでしかありません。

自分で決めるのだから思い付く最善を選択する為の知恵が身に付きます。知恵には学ぶ必要があり創造力を育てます。創造力は人生に付加価値を産みます。付加価値が即ち生活の改善であり、人生の施設の暮らしの質を向上させた「モノ」であると考えます。



(2) 年金がすべての収入と考えず年金をベースに如何にプラスの価値を上乗せするかを考える。

～一部の人を除いて大半の人は年金額が少ないと不満ではないですか。不満解消の工夫が必要です～

投資を嫌がらない事も重要です。娯楽や消費にはお金を払いますが学ぶ為の費用は惜しがる人が多いです。資本主義の日本に暮らしているのだから付加価値を創造する為の投資は積極的に行う事です。買わない宝くじは楽しみが無いのと同じようなものです。以上のような事柄も経済に興味を持てば自然に理解出来ます。

(3) 施設の外に拠点を創設すること。拠点の有効活用を計る。

～外部に開かれたオープンな場、ふれあいの場とし鎖国の時代の長崎の出島機能～

施設は限られた空間であり一般的に見れば地域から隔離された状況で閉塞社会の感は免れません。お金の有る人は別荘を持ったりホテルを利用したりしています。

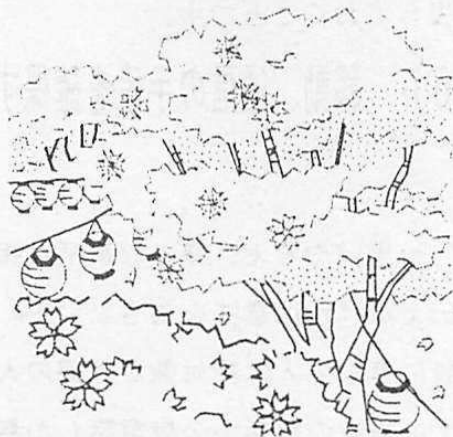
私たちが施設を離れて時間を過ごす事は必要な行為と考えています。これ

も経済を知れば思い付く発想です。拠点を獲得する方法や位置、維持管理や利用方法創造の空間として捉えても良いと思います。施設の外に出るのは人々が散歩に出たり通学や出勤、旅行や出張と同じ行為と考えるのです。素晴らしい映像や読書も必要ですが出かけて行く行為が精神を活性化します。まさに経済効果の目的でもあることが分かります。

(4) 発想の転換と言われます。

～知恵やアイデア、コミュニケーションから生まれるものを経済や経営に活かす～

段差がどうの、道が悪い狭いの、お金が無いの、身体が動かないの、重いもの、等々否定的に考えずプラス思考で暮らすように努力することです。経済に興味を持てれば解決の出来る発想も生まれてくるはずですが。障害者は不自由者の別名であり健康な人々も多少の差はあっても不自由な者です。不自由



を常と思えば不足無しです。

◆ 買う、消費、使う、～してもらう、
受ける、頼る、等々の考えから売る、
造る、使われる、～してあげる、働き
かける、頼られる等々の発想に善意の
転換をする。売るとか造るには多大な
知恵と労力が必要です。積極的に生き
る為の行為ですから否定する人は人と
しての資格がないのです。

(5) 外部の資源を有効活用する。

～人材、労力、情報、組織、資
金、等々を活用する～

施設内では日常に接する人が限られ
ており、地域や世間から隔離された状
況に陥りやすいのと、各人の人生とい
うものをサポートしてもらうには絶対
的な不足が生じる。外部との交流、支
援という面も含めて積極的に関わっ
てもらえるような体制と努力は欠かせ
ない要件であろうと思う。良いもの
を取り入れるには外部に眼を向けて
アンテナを張っておくことです。

(6) 移動、通信の手段を確保す る。

～思いや考え、様々な事柄は相
手に伝えなければ意味を為さない～

施設に暮らす人は絶対数が外部の人
と話すに施設の電話か公衆電話しか無

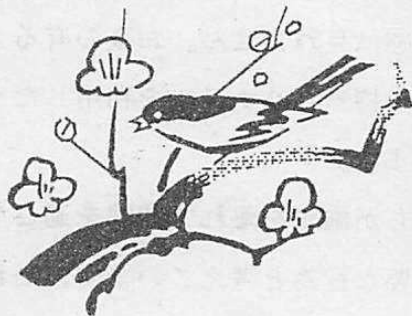
い。今日では無線や携帯電話があるが
持っている人は少ないと思う。枕許に
電話を置く事で何時でも思う時に相手
にかけられるし、相手からののも何時
でも受けられる事で容易なコミュニケ
ーションが計れる。タイムリーな会話が
大切なのです。

更に、居室と寮母室はつながってい
るが各居室間はつながっていないと想
像します。ベッドに上がってしまえば
孤島のごとく、職員か動ける仲間が伝
達係りいうのでは話が伝わりにくい
と思いませんか。

何時でも誰とでも何処へでも話が伝
えられ会話の出来る状態が世間並で社
会の一員であると考えます。

と、同時に足が無ければ何処へも行
けません。物は簡単に移動出来るシス
テムが出来上がっていますが、障害者
の大半は施設の外の散歩もままなり
ません。

市街地から遠くに、人の住んでいな
い所に建てられた施設の人は車や運
転してくれる人が無ければ行動にも限界



があります。障害者が何時でも何処へでも気軽に出かけられる事が大切ではないかと思えます。ささやかな年金暮らしの人にはタクシーの利用は厳しいので施設の車の有効利用として公私に活用すると良い、(我が施設は実施している)

(7) その他として効能を理解すること。

～(A)に興味を持つことで施設の暮らしを良くする始発点になる～

欲求、意欲の喚起につながる。人の生涯は欲求や意欲が無ければ成り立たない。オシッコがしたい、危ない事は避けたい、異性に興味を持つ、自分を高めたい、或いは人に認められたい等々は欲求からきているように思えます。

その為に意欲を注げば即ち人生そのものとして価値が認められる。まさに、意欲を持つ事がQOLの目的と受け止めています。

具体的な活動の中では、問題の掘り起こしから提案型に変わる。知的能力、創造力開発、意欲の掘り起こし、長期療養患者(病人的思考)からの脱却、

官僚的体質ややお役人の親方日の丸思考が減る。

生活が快適になる、社会参加と交流が活発に成る。無形のモノやサービスの意味が理解出来る。

長々と書きましたが、施設に暮らす人は選択の余地が少なく、受け身の生活に陥りやすいと思う。個よりも集団が優先する場合が多い。ならば個の確保と集団のメリットの融合点を見出した上で「みんなで渡れば恐くない」式に集団パワーの発揮で施設の真価を世に問う気概で暮らしたいものだ。やさしく言えば買うことばかり考えないで売る立場で行動することではないでしょうか。

私の心境として拙い短歌に託して
「打破、打破と世は変革の時に在り確かな明日へ模索の続く」

介護を受ける障害者も関わる職員も共に意識を変えることで、目指す目標が必ず見付かる筈です。あなた自身の為に「粘り強く熱く果敢に」が結びの言葉です。



原稿募集

☆ 皆様から広く原稿を募集しています。最近あった良いこと悪いこと、気になった職員の一言、施設の自慢話など、施設に関することなら何でも結構です。長短も問いません、お気軽に事務局までお寄せ下さい。

☆ 5月発行予定の「あした」はパソコン通信特集を考えております。各地に点在する施設の仲間同士が情報を交換し合うためにパソコン通信は最適な手段と確信しております。そこで、すでに始めている方をお願いしたいのですが、施設のなかでどんな仕組みでやっているのか、どんな風に役立っているのかなどの原稿を事務局までお寄せ下さい。（締切3月末、字数不問）

また、パソコン通信のIDをお持ちの方も事務局にご連絡下さい。

☆施設見学と「フリーストーク」

四国シンポで要望の多かった「施設見学」とざつくばらんに話し合えるような「交流会」を職員ネットに協力していただき、今年9月ころ神奈川県またはその近辺の施設で開催することにしました。具体的な日程など決まり次第ご連絡します。ただし、最寄りの駅から施設までキャブの運行は可能ですが、宿泊は紹介程度になるものと思われれます。そこでなるべく、職員と利用者でチームを作って参加していただけますようお願いいたします。

事務局

	りょうごしせつじちかいぜんこく	まかんし	
	療護施設自治会全国ネットワーク	機関誌	『あした』 No 8
はっこうび	発行日	1997年	3月15日
はっこうしゃ	発行者	『療護施設自治会全国ネットワーク』	じむきょく 事務局
れんらくさき	連絡先	〒204 東京都清瀬市3-1-72	とうきょうとせりようごえん 東京都清瀬療護園
		TEL. 0424-93-3235 (代表)	だいひょう FAX. 0424-93-3234
ゆうびんりかえ	郵便振替	『療護施設自治会全国ネットワーク』	00180-0-715838

療護施設自治会全国ネットワーク